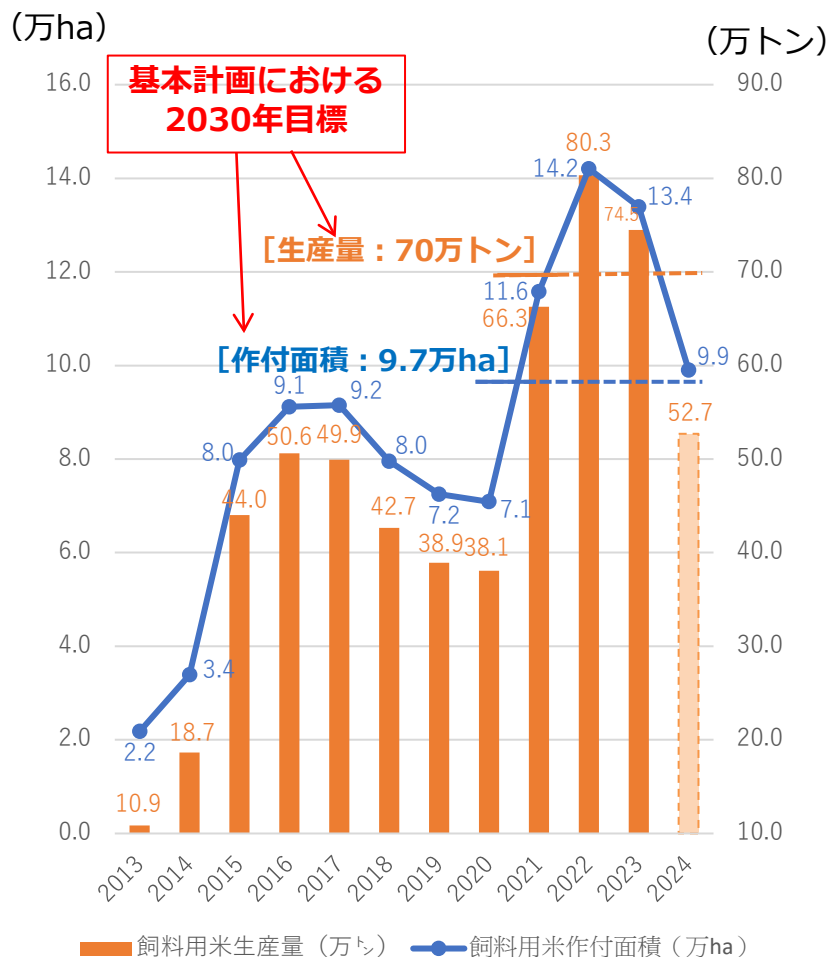


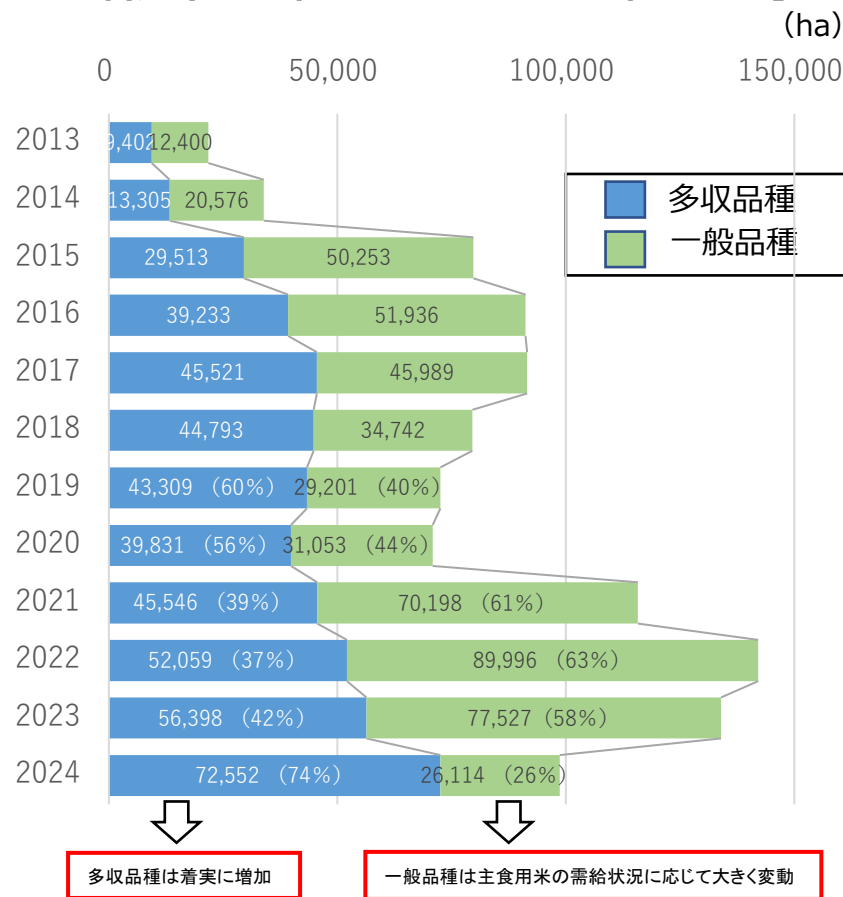
飼料用米の取組状況①

- 令和6年（2024年）産の飼料用米作付面積は9.9万haとなり、令和5年（2023年）産から3.5万ha減少したものの、基本計画における2030年目標の作付面積9.7万haを上回る水準。
- 多収品種の取組は着実に増加してきているが、一般品種の取組は主食用米の需要状況に応じて大きく変動。

【飼料用米の作付・生産状況】



【飼料用米の多収品種・一般品種の作付割合】



出典：農林水産省調べ。
※2024年の生産量については認定計画ベースであり、作柄等が反映された実績ベースではない。

出典：農林水産省調べ。「多収品種」とは「国の委託試験等によって育成され、一般品種と比べて子実の収量が多く、当該都道府県内でああ主に主食用以外の用途向けとして生産されているもので、全国的にも主要な主食用品種でないもののうち、知事の申請に基づき地方農政局長等が認定した品種」である。

飼料用米の取組状況②

- 令和6年（2024年）産の飼料用米作付面積は9.9万haとなり、令和5年（2023年）産から3.5万ha減少したものの、基本計画における2030年目標の作付面積9.7万haを上回る水準。
- また、飼料用米の生産の約5割が経営規模（全水稻の作付面積）が15ha以上の大規模農家により担われている。

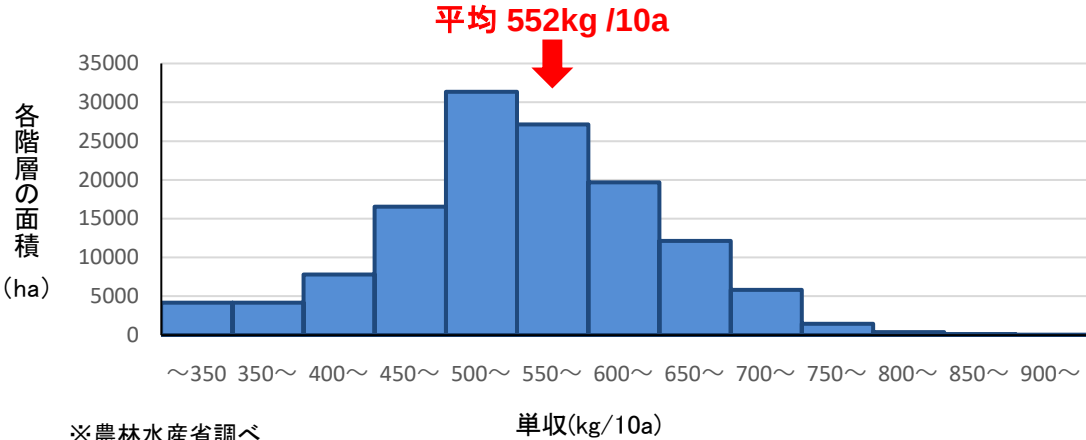
【飼料用米の作付・生産状況】

	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
飼料用米作付面積（万ha）	3.4	8.0	9.1	9.2	8.0	7.3	7.1	11.6	14.2	13.4	9.9
うち、多収品種の作付面積（万ha）	1.3	3.0	3.9	4.6	4.5	4.3	4.0	4.6	5.2	5.6	7.3
割合	39%	37%	43%	50%	56%	60%	56%	39%	37%	42%	74%
うち、区分管理の取組面積（万ha）	2.7	6.0	7.3	7.6	7.0	6.5	6.3	9.1	11.3	10.8	2.6
割合	80%	75%	80%	83%	88%	89%	89%	78%	80%	82%	26%
飼料用米生産量（万トン）	19	44	51	50	43	39	38	66	80	74	53

注：「区分管理」とは、主食用米を生産する圃場とは異なるほ場で飼料用米のみを作付ける手法で、主食用米と同一のほ場で飼料用米を生産する「一括管理」と比べて、多収品種の導入が容易で、飼料用米の定着が期待できる。
「飼料用米生産量」は、実際の収量を反映した実績値。
R6年生産量については、地域の基準単収を使用し、算定された生産数量見込みであり、作柄等が反映された生産量とは異なる。

○ 飼料用米の単収分布（令和5年産）

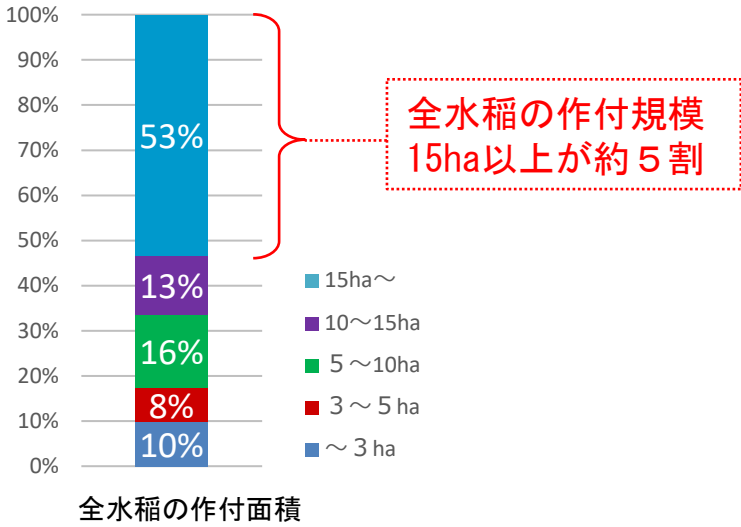
平均単収：552kg/10a



【参考】単収の推移

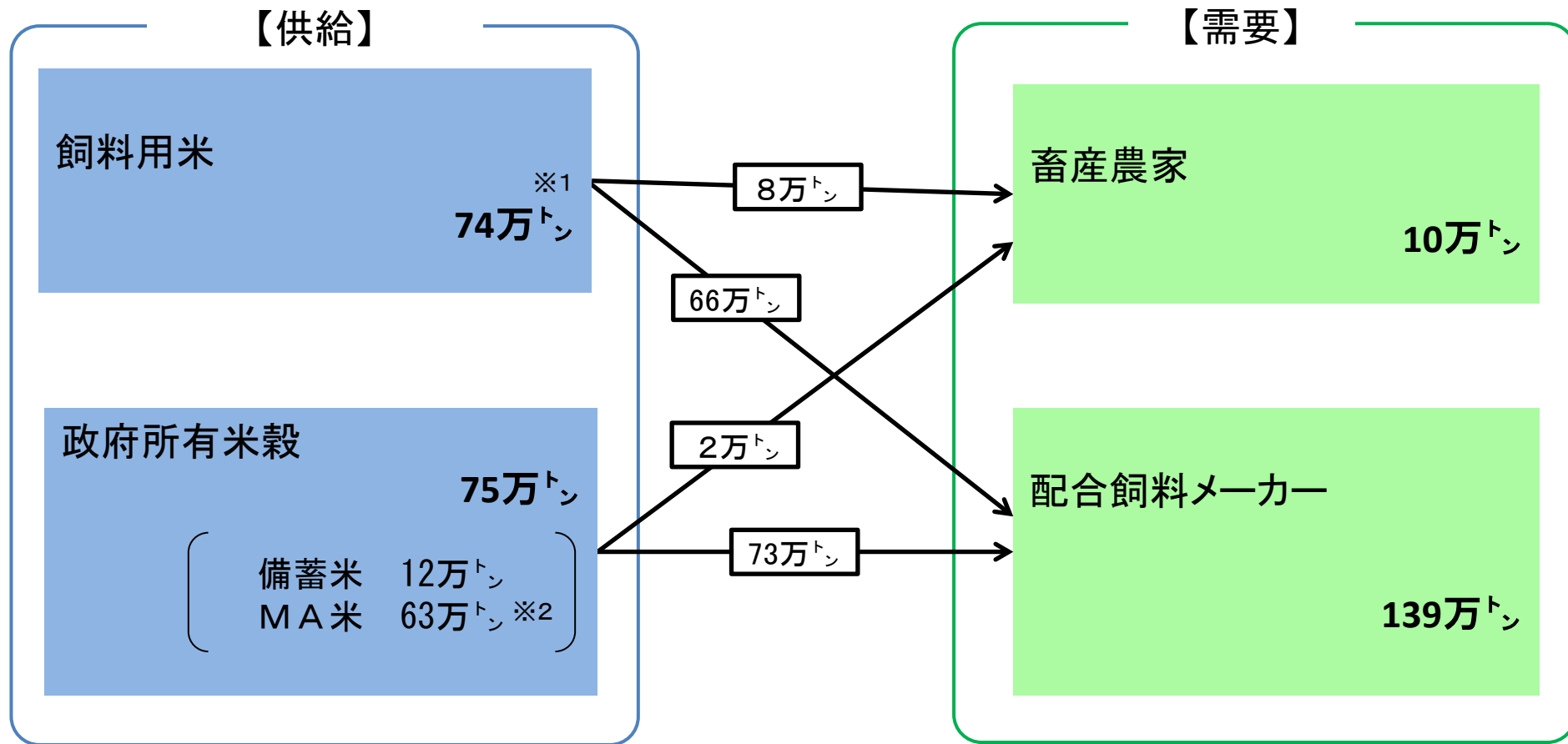
	H27年産	H28年産	H29年産	H30年産	R元年産	R2年産	R3年産	R4年産	R5年産
水稻平均単収	531	531	532	532	533	535	535	536	536
水稻平均単収	531	544	534	529	528	531	539	536	533
飼料用米平均単収	555	558	549	538	539	539	575	568	552

○ 飼料用米生産者の経営規模（全水稻の作付面積）別分布状況（令和5年産）



- 現状、飼料用に150万トンの米が畜産農家・配合飼料メーカーに供給されているところ。

米の飼料用としての供給量(令和5年度)



※1：令和5年産の生産量

※2：数量は実トンベース

注：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。